

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設の基本的な理念を作り 職員全員が理念に基づいた介護を行っている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関の目立つ場所に掲示し、各会議などの際にその都度、再確認している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の方の来荘時に確認して頂けるよう 玄関の目立つ場所に掲示するとともに、施設での行事の際に理念について説明している。		
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方には必ず挨拶をするように指導している。行事などの際には参加を呼びかけ、参加して頂いている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り 運動会、バレーボール大会などに参加し、地元の人々との交流を行っている		もっと交流の機会を増やしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の際に地域の役員の方々と、地域の高齢者の問題などについて話し合っている。福祉に関する相談を常時受け付けている。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価後に会議を行い、そこで改善への取り組みについて全員で協議し、サービスの向上に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で施設の状況や問題点などを報告し、それについてのアドバイスを頂いている。会議後に施設内でアドバイスを参考に改善に取り組んでいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常に市町村担当者や連絡を取り、問題発生時などは素早い対応が出来るように連携しサービスの向上に努めている。研修案内も頻繁に行って頂き、活用させてもらっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は該当者はいないが職員間で学習し理解を深め、必要な時に十分な説明が出来るようにしていきたい。過去に数度、会議にて説明を行っているが職員への浸透はまだ不十分である。		職員の各制度への理解を深める為の勉強会の機会を増やしていきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や勉強会において虐待防止について言及し、職員に常に意識してサービスを提供するよう指導している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際の説明を十分に時間をとり、詳しく丁寧に説明を行い、項目ごとに不明な点がないか確認するようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情を聞いた際は必ず報告し、対応を検討するよう徹底している。また苦情受付箱も設置している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族への連絡の際などに、その都度状態等についての説明を行っている。金銭管理については毎月通帳のコピーと領収書を送付して確認して頂いている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に家族代表として出席して頂いたり、苦情受付箱を設置するなどして、気軽に申し出が出来るようにしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、幹部会、全体会議、各棟定例会を行い、職員の意見を取り入れ反映させている。毎日の朝礼時にも意見等を管理者に報告するようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>基準より先職員を多めに配置し、より柔軟な対応ができるようにしている。管理者は毎日の朝礼時によりスムーズに業務が遂行できるようにその日の体制について職員に説明するようにしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の意見を聞く機会を増やすと共に、交流会などの行事を積極的に行い十分なチームワークを発揮できるよう親睦を深めている。</p>		<p>もっと職員一人一人の状態等を確認し、管理を行い、職員が安心して働ける職場にしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	求人に関しては年齢、性別などでの制限はしていない。採用した職員については、よりその能力を發揮できるように能力に適した配置を行い対応している。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の会議、定例会の際に、その都度人権尊重の大切さについて言及し、再確認するようになっている。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受けられる機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修や内部での勉強会などを行っているが、もっとその機会を増やしていきたい		職員育成の為の指導要綱、カリキュラムの作成に取り組んでいきたい。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設対抗バレーボール大会などの施設合同での行事を行ったり、他施設の行事などに参加するようし親睦を深めているが、もっと交流を深めていきたい。		施設間合同での勉強会などを行っていきたい。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員への負担が増大しないよう日々、状況を確認し対応を行っている。また親睦会を定期的に関開くなどして、意見の出しやすい職場作りに努めている。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている	職員一人一人の特性、長所を見出し能力を十分に發揮できるよう配慮している。研修への参加も積極的に行い、より向上心を抱けるようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所される前に本人と会い、不安なこと、求めていることを、よく聴きフェイスシートを作成し記入後、職員に申し送りをしている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>上記同様、事前に話し合いの場、機会を作り、家族の要望を出来る限り取り入れられるよう努力している。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた際に必要とされるサービスが他の支援であるかどうかを見極め必要であれば他の関係機関に連絡、調整、紹介を行なっている。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所契約前に本人に施設見学、体験入所を利用して頂き、再度、家族と話し合っている。本人が慣れるまでは、家族の協力の下、面会や電話等の機会を多くして頂いている。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>共同生活の場を最大限に活用し、野菜作りや料理の味付けなどの知識を教わり、レクリエーションや一緒に食べる食事での会話、時には本人の居室などで職員と二人で昔話を聞かせてもらいながら、日々喜怒哀楽を共にしている。</p>	

グループホーム ころこ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年間行事には積極的に参加して頂きながら、家族との交流をできる限り深めていく努力を行っている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	これまでの本人と家族の関係、現在の状況等を考慮した上で、今まで以上の関係が築いていけるよう連絡、調整等密に行なっている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	年賀状や手紙を出したり、ドライブ等の外出時に本人の馴染みの場所及び馴染みの人に会う機会を作り支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やレクリエーション時、行事や共同作業時などの際は、一人ひとりの性格やその日の体調等考慮し席を変えるなど工夫している。利用者同士が関わり合い支え合えるよう職員が間に入るなども行っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者や家族に対しては、必要により訪問を行い相談、情報提供等に取り組み支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で、利用者一人ひとりの希望を取り入れている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に生活歴や経験等をできるだけ詳しく聞き日々の暮らしや ケアに活かしている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>職員が入居者一人ひとりの生活歴を把握し、現在の生活の中で本人の心身状態に合わせ、必要とするケアを提供している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントを基に本人家族の意向に沿った介護計画を作成している。また、月1回介護経過についてのカンファレンスを行いチームケアに活かしている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6か月に1度の定期的な見直し、及び月1回のモニタリング実施により、状態変化時はカンファレンスを行いチームケアに活かしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録等は項目等工夫している。また、記録によりスタッフ全員が本人の状態を把握できるようにして、情報の共有を図り介護計画に活かしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設行事等にもご家族への参加をお願いし同じテーブルで食事が摂れるように配慮している。また、ご家族の希望があれば居室での宿泊等柔軟な対応をしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域行事にはできる限り入居者にも参加して頂き地域住民との交流を深めている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望や必要に応じて、理美容や福祉用具の相談等事業所との連携を図っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただいている。入居者の状態変化時の対応等助言を頂いている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医療機関を確認し、本人希望により受診の支援を行っている。また、通院が困難な入居者については協力医療機関との連携により往診にて対応している。		

グループホーム ころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者や認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医への受診が必要と判断された場合は、主治医、家族と相談し専門医の受診ができるよう支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、入居者の健康管理に努めている。また、入居者の特変時は看護職員との連絡を取り適切な対応ができるようにしている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	洗濯物や必要な物を持参するなど、身の回りの支援を行っている。入院中の様子、病状など主治医や看護師との面談により情報交換及び相談に努めている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族に入居者の状態変化や病状等の情報提供を行い必要に応じて、ご家族、主治医、スタッフで話し合い全員で方針を共有している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をよき暮らしをするために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医やご家族との連携を図りながら、本人にとって良い生活ができるよう支援している。また、今後の体調変化に備えスタッフ全員で検討を行う		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時は関係機関との調整及び情報提供を行ない、本人、家族が安心して生活できるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>全体会議や定例会議等で、職員に個人情報や言葉のかけ方、接し方の対応を常時見直すようにしている。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>献立作成の際は、利用者様の好きな食べ物、食べたい物を聞いて、出来る限り要望に沿えるようにしている。その日の衣服などは、本人の意思で着たいものを選んで頂いている。又、今何がしたいのか書いて頂いたり聞き取りを行い、利用者様の希望の表出の支援を行っている。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>出来るだけ利用者様のペースに合わせて共に、今日はどうの様に過ごされたいのかなどを尋ね、希望に沿うよう支援している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>定期的に理容店の方が施設にいられて散髪、顔剃りなどをして頂いている。利用されない方は家族の方が来られた時に出掛けられ散髪されている。衣類などは衣替え時期に持ってこられ、シーズンオフの分は持って帰られている。男性の利用者様には毎朝髭剃りの声掛けをし、介助が必要な方はスタッフが支援している。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ジャガイモの皮むき、もやしの根きり、ゴボウ削ぎやおやつ作り、椅子に座って出来る事や、料理の味見や盛り付けをして頂いたり、おしぼり作り、洗った食器やトレーを拭いて頂く。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>スタッフは利用者一人ひとりの嗜好をきちんと把握しておりおやつ時の飲み物もお茶、コーヒー、ジュースなど好きなものを選んで頂いている。利用者と一緒に買い物に行き好みの物を購入して頂き、日常的に楽しんで頂けるように支援している。</p>	<p>現在タバコを吸われる方はおられないが、お酒を好きな方はおられるので、夕食時や行事の時などに取り入れていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄意思がある利用者様は見守りを行い、排泄意思のない方には声掛けを行いトイレ誘導し、安心した排泄の支援を行っている。		出来るだけパットの失禁を減らす為に、排泄パターンを把握した上での早めの声掛けを行い、トイレでの排泄が安心して出来るように支援して行きたい。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に希望される利用者様には毎入浴して頂いている。そうでない方は三日に一日の入浴支援を行っている。入浴時間は希望を聞き、ゆっくり入れるよう支援している。仲の良い利用者同士と一緒に入浴されることもある。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動量を出来る限り確保しながら、昼夜逆転を防ぎ、夜間は安心して入眠できるよう臥床前に話をしたりする時間を作っている。又、寒い時期は臥床前に足浴をし、暖かく入眠できるように対応も行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホール内で洗濯物をたたんで頂き、自分で居室まで持って行ってもらうたりおしぼり作り、トレー拭き、料理の盛り付け等の軽作業を頂いている。レクリエーション時には順位や勝ち負けを取り入れながら張り合いや喜びを感じて頂けるよう掛けている。ドライブや散歩、買い物等も多く取り入れている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的な金銭管理は職員が行うが、日常生活の中で買いたい物があれば職員付き添いでいつでも自由に買い物出来るよう取り組んでいる。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に利用者が買い物に行ける時間や機会を提供したり、病院への定期受診の帰り等に自宅に寄ったり買物をされる方もられる。家族の面会の際に一緒に外出して食事や買物をされることもある。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	利用者の希望を聞き、季節ごとの日帰り旅行や映画鑑賞や外食、地域の行事(夏祭りしめ縄作り等)、保育園や小学校の運動会、クリスマス会、発表会などさまざまな場所に出掛けられるように支援している。		

グループホーム ころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて事務所の電話をかけたリ かかってきた電話の取次ぎを行っている。また、手紙、年賀状、暑中見舞いも出せるようにしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会に来ていただけるように、特に面会の時間は決めていない。面会時には居室でくつろげるように配慮している。行事には地域住民の方も気軽に参加できるようにしている。利用者から面会の希望があった場合にはスタッフが連絡を行うようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、会議や社内勉強会等によりスタッフ全員の意識付けをして、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や門扉の鍵はかけずに開放されている。利用者の状態に応じ単独またはスタッフ付き添いにて自由に往来できるようにしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員による徹底した見守りを行い所在確認をしている。居室で過ごされる方については本人の状態に応じて訪室を行っている。1時間に1回は訪室し声かけ等行っており全職員が一人ひとりの利用者の状態を把握している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりの状態に応じて、はさみや爪切り等を管理使用できる方については管理して頂いている。できない方についてはスタッフにより管理している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に消防訓練や応急処置等についての勉強会を行っており、また、協力医療機関より情報を得て再発防止に取り組んでいる。会議を行い全職員に報告をし周知徹底を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時や事故発生のマニュアルを作成しており職員に周知させている。年2回全員参加の消防訓練等を通じて心マッサージ等応急処置を勉強している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	6か月毎の消防訓練を実施している。地域住民の方にも運営推進会議等で協力を得られるようお願いしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の状態変化があった場合には的確に状態や様子を報告し、リスク対応について全職員で検討し家族に再度報告している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックで一人ひとりの状態観察を行いスタッフ間での情報を共有している。状態変化に気付いた時は看護師と連携をとり必要であれば受診の支援を行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、スタッフが付き添い処方薬の目的、副作用について主治医へ確認をしている。個人毎のファイルに処方箋をファイリングしスタッフ全員が情報を共有化できるようにしている。状態の変化が見られた時は協力医療機関との連携により対応している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	消化の良いメニューを作成し利用者にあった形状や状態で提供している。牛乳も毎日飲んで頂いている。また、レクリエーション等で体を動かす機会を作り便秘予防に努めている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨きを利用者の状態に合わせて支援している。また、義歯は週1回は義歯洗浄剤を使用している。歯に異常がある方については通院、往診により受診の支援をしている。		

グループホーム ころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食後、水分量は飲水時に摂取量のチェックをしている。糖尿病及び予備軍の方については主治医との連携により摂取量の制限や便秘症の方については食物繊維を取り入れている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを確実に実行し年2回の検便を行っている。また、利用者、職員全員インフルエンザ予防接種を受けている。調理の際は手洗い及び調理器具の消毒等を実施している。利用者、スタッフ共、外出から戻った際に手洗い、うがいを実行し予防をしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は賞味期限、消費期限の管理を徹底し3日分の食材の購入を行っている。また、夏場の食材については特に鮮度管理を徹底し食中毒の予防を行っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者と一緒に花壇や畑等の手入れを行ったり、花壇に咲いた花や畑の野菜を収穫し料理を作るなど家庭的な雰囲気を作っている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、玄関等に季節感を取り入れた飾りつけ、外出時の写真を貼り居心地の良い環境を作っている。特に共用スペースの清掃は、日々徹底して行っている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや畳のスペースで休まれたり利用者同士で談話ができる居場所の工夫をしている。		

グループホーム ころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前から使用されていた物、使い慣れた物を家族の方に持ってきていただき、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は、居室の換気を行なっている。また、冷暖房使用時は室内温度に注意し利用者の状況に合わせ対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行されている方、のみならず車椅子の方が自操し易いようにスペースの確保、及び安全な環境づくりを行っている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の居室入り口には名前表示と目印となるよう個人別に飾りつけを行い工夫している。また、トイレ・浴室等にも間違わずに使用できるように配慮している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	敷地内の花壇や菜園にて利用者と観賞や収穫を楽しむようにしている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム ころ

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域との交流を積極的に進め、職員一人ひとりの活性及び人としての尊厳に努めている。